

腸炎のお話し

(有)シェパード
中央家畜診療所

SHEPHERD

腸炎のお話し

- 夏と冬では下痢の原因も違う
- まずは夏場の下痢のお話しから行きます
- 夏場の下痢の原因の特徴を抑えておきましょう
- 食中毒への注意を念頭に置くとわかりやすいです

SHEPHERD

夏場の下痢の原因

- 飼料の傷み(不飽和脂肪酸の酸化で過酸化脂質増加)による下痢も
- カビ毒やカビ自体も増える時期
- 暑熱による体力低下、飲水過多による水分出納異常による下痢、飲水過多により第4胃液希釈によって十分な殺菌ができないケースも

SHEPHERD

夏場の細菌性下痢の対策

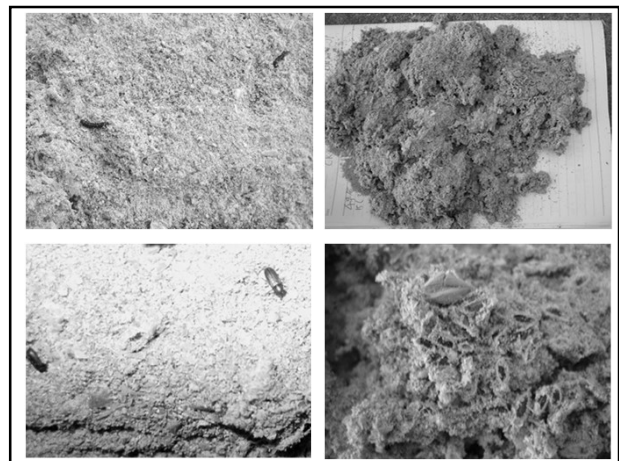
- 飼槽をこまめに掃除して消毒する
- 自動給餌器のリザーブタンクやミキシングカッターの内部の掃除をする
- 水槽もよく掃除してやる
→フロート式の場合はフロート室内部も
- 可能ならドサトロン設置でオキシリンクを添加する(掃除も楽になる!)

SHEPHERD



自動給餌機の計量タンクの中もときどきチェックしないと貯まった飼料カスにカビやウジがいっぱい

SHEPHERD



夏場の下痢の原因 クイズです

- 弓座さんにあることをやってもらいました
- その結果、下痢が減少してシェパードの首を絞めています(笑)
- 一体何を勧めましたでしょうか？

SHEPHERD

夏場の子牛の下痢で 時折見かける水質異常

- 井戸水や湧き水、川から引いた水などを利用している農家さんも多い
- 夏場にこれらの水の細菌数が多くなること、および飲水量も増えて第4胃での十分な殺菌ができないことが原因で下痢が増えることがあります
- 子牛だけでも飲み水を上水道に代えてくださいとお願いしました

SHEPHERD

飲水過多による下痢を防ぐには

- 水を飲むのは喉が渇くためと身体を冷やすため
- 暑熱に対する遮熱、通風、揮発冷却などで、環境温度と体感温度を下げてる
- ミルクの前後、スタータ給与の前後30分に飲み水を切る
- 飲み水をオキシリンク等で殺菌するのも効果的

SHEPHERD

夏場のビタミンAの消耗で起こる下痢

- ビタミンAは、粘膜上皮の恒常性維持、免疫の維持に大変重要
- 肥育牛で血便の多発する農場で、かつ鳥の飛来の多い農場ではビタミンA欠乏に注意
- 他にもルーメン絨毛のVFA吸収能が低下するとルーメンpHの低下でアシドーシスからのエンドトキシンが大量発生して代謝性腸炎もしくは肝炎性の下痢発生

SHEPHERD

多剤耐性菌に対する対処

- E.coliやProteus属などで多剤耐性菌が増加
- むやみな抗生物質選択や不完全な使用に注意が必要
- コストから考えても良質の生菌剤の多量(通常添加の10~20倍)給与で対応する方がよいケースも目立つ

SHEPHERD

尿石症(尿毒症)による下痢

- 尿石症などで血中NH₃やBUNが上昇すると、緑色粘調性の下痢を呈する
- 以前は冬~春先に尿石症が多発していたが昨今温暖化の影響で肝機能、腎機能などの低下による血中NH₃やBUN増加で尿pHが上昇して尿石症を発症するケースが増加しているので下痢の際は尿石症にも注意!

SHEPHERD

尿石症(尿毒症)による下痢

- 尿石症などで血中NH₃やBUNが上昇すると、緑色粘調性の下痢を呈する
- 以前は冬～春先に尿石症が多発していたが昨今温暖化の影響で 肝機能、腎機能などの低下による血中NH₃やBUN増加で尿phが上昇して尿石症を発症するケースが増加しているので下痢の際は尿石症にも注意！

SHEPHERD

母牛の2等乳による下痢

- 夏場は母牛の体調も低下しやすいのでアルコール不安定乳が出やすい
- とくに発常時には乳質低下による子牛の下痢が発生しやすい
- 母乳性白痢が疑われる場合は母牛にもペニシリン10ml+デキサメサゾン5mlを皮下注射すると子牛の改善が早い

SHEPHERD

飼料の不適合による下痢

アシドーシス性の下痢

- 飼料中のNFC(非繊維性炭水化物)が牛の系統に対して過剰である場合やNFCの発酵速度が速すぎる場合はルーメンアシドーシス性の下痢が発生する
- 子牛の育成期などによく見かける
(便のphを確認)
- 肥育牛の中期などで便の変色(緑灰色に変化)が早いときもビタミンA不足によるR・アシドーシスを疑う

SHEPHERD

飼料の不適合による下痢

アシドーシス性の下痢

- ルーメンアシドーシス性の下痢に対してはまず簡便な方法として鉢塩アルカリックスの設置やアシドキック、重曹の添加で対応する
- 繊維質飼料の増飼による変化を見る
- それで効果がない場合は飼料の設計変更

SHEPHERD

飼料の不適合による下痢

タンパクの二次発酵性の下痢

- 飼料中のUIP(非分解性タンパク:現在はRUPと記すが農家さんにはまだUIPの方が通じる)の消化率が悪い場合などは大腸で二次発酵してアンモニアを発生し下痢を引き起こす
- 悪臭のある下痢、黒色の下痢などを呈し大腸潰瘍を起こす場合もある
(便のphを確認)
- 良質な生菌剤添加で改善しない場合は飼料の変更をした方がよい

SHEPHERD